

1 教育方針

- 建学の精神に則り「体・徳・知」の調和のとれた、科学的思考のできる人材を育成する。
- 学問を好み、学力充実のために刻苦勉励し、併せて人徳を備えた人材を育成する。
- 人の立場を理解し、自己を抑制し、思いやりや優しさを備え、人のために汗を流せる、奉仕精神旺盛な人材を育成する。
- 多様化する社会の中で困難な状況下であっても、不撓不屈の精神を持ち、リーダーシップを発揮できる人材を育成する。

2 本年度の教育重点目標（新型コロナウイルス感染拡大防止対策の徹底を図って次の目標に向かう。）

- 4つの生活信条「奉仕精神を旺盛にする」、「人の立場を深く理解する」、「物を大切に」、「礼儀作法を実践する」を実践し、心豊かで社会に貢献できる人材の育成を図る。
- 学習指導、進路指導、生活指導、広報活動の更なる充実を図る。
- 施設設備の充実、教育環境の整備を図る。
- 生徒の諸活動(学校行事、部活動、生徒会活動)の充実を図る。

3 自己評価総括表

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：やや不十分 D：不十分

評価項目		評価の観点(具体的目標)	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目				
学校経営	特色ある学校づくり	①「体・徳・知」の調和がとれ、科学的思考のできる人材を育成する。 ②コースの特色、生徒一人一人の個性を生かした教育活動を展開する。	・4つの生活信条を学校生活・教育活動で実践する。 ・進歩より深度を基本に授業を展開し、進学・就職の実績を高める。 ・運動部活動や文化部活動の活性化。	A	進路別クラス編成で、多様な進路希望に対応した教育活動を展開した。新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら、生徒の進学・就職へ向けた適切な進路指導を継続した。衛生マニュアル「学校の新しい生活様式」を踏まえて部活動を実施した。
	開かれた学校づくり	③学校のHPや広報誌「文徳点描」で適切な情報発信をし、学校理解を進める。 ④保護者、地域及び関係機関との連携を図る。	・HPや学校通信「文徳点描」の更なる充実を進める。 ・内部広報の充実を図る。 ・PTAや同窓会、学校評議員、地域等と連携し、協力体制を構築し、生徒支援の教育活動を推進する。	A	HPは動画による発信内容も豊富になり、より充実したものとなった。新型コロナウイルス感染防止のため、文徳会総会(保護者総会)は書面総会となったが、運営委員会・合同理事会・学年別保護者会は感染防止対策を講じて実施した。
	教育環境の整備	⑤教育環境整備計画を推進する。 ⑥適宜施設整備を点検し、危険箇所等の早期発見、早期対応を図る。	・新校舎及び周辺施設を有効に活用する。 ・環境美化のためゴミの軽減に取り組む。 ・教室内の掲示は適切に行う。	A	校舎のタイル補修工事および文徳寮の耐震対策に係る寮の統合に向け、文六寮に学習施設を増設するなど、施設整備を行った。7月と12月に学校設備不具合調査を実施し、全職員で点検。危険箇所への早期対応を図った。
学力向上	授業力の向上	①学習指導方法の工夫・改善を施し、授業の充実を図る。 ②各コースの実情を見据え、3年間を見通した指導計画に基づき学力の定着・向上を図る。	・各コースごとの特徴を踏まえて、学力向上(基礎力の定着、応用力の涵養)に向けたシラバスを作成し、各教科担当者が工夫した授業を行う。 ・研究授業、公開授業を実施し、指導力のアップを図る。	B	臨時休校期間中は学年別の分散時差登校とし、時短授業を実施。夏休みの短縮と土曜日の特編授業で授業時間を確保した。年間行事計画の変更に合わせて各コースの特色を踏まえたシラバスを再検討。今後はICTを活用した指導法の確立が課題となる。学校参観(公開授業)は感染防止のため実施できなかった。
	学習習慣	③家庭学習の習慣化を図る。 ④生徒の課題学習への取り組み状況を把握し、適切な学習指導を行う。	・教科担当者は授業後の課題を提示し、家庭学習を促す。週末には週末課題を提示する。 ・「学習と生活の記録」を活用し、個々の生徒の学習状況を把握・共有する。	B	「Google classroom」を活用し生徒への学習情報発信を実施し、家庭学習を促した。登校日に各コースの学習内容に添った課題を配付・回収し、生徒の学習への取り組みを把握した。学校再開後は「学習と生活の記録」を活用し、学習状況の把握に努めた。
	読書指導	⑤本に親しむ環境、多面的に知を求める姿を育成する。 ⑥読書週間を周知徹底し、読書習慣の定着をはかる。	・図書館教育、読書指導の充実を図るため、生徒会図書委員会の活発な活動を促す。 ・定期考査後の読書週間を更に活用し、読書に向かう姿勢を育む。 ・『図書だより』を定期的に発行し情報伝達を図る。	B	中学校で実施されている朝読書を『読書案内』を通してサポートし、読書活動の充実を図った。本に親しむ心の育成を目的にシオリコンクールを実施した。高校では、図書委員会による『図書だより』や読書週間を活用して読書習慣の定着を促した。今後は、朝読外のない生徒に対して朝読書を奨励したい。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	①命を大切にすることを育てる教育を行う。 ②基本的生活習慣の確立 ③生活信条の実践 ④掃除の徹底 ⑤服装・容儀を正す ⑥遵法精神の涵養 ⑦情報化社会に伴う諸問題の把握と加害・被害防止対策 ⑧薬物乱用防止の啓発と運動の推進	・新入生研修や各学年集会を通じて人とより良く生きる教育を行う。 ・心身の健やかな成長を支える基本的生活習慣を身につけさせる。 ・遅刻・欠席の原因を究明し、適切に指導する。 ・教育環境づくりに力を入れる。拭き掃除の徹底と整理整頓の指導 ・薬物乱用防止の啓発と運動の推進のため、外部講師等に依頼し、正しい知識を身に付けさせる。	A	生徒同士がお互いの人格を尊重し合いながら充実した学校生活を送れることを目指し、始業式・終業式はもとより、各学年集会でもルール、マナーの遵守を呼び掛けた。朝の登校指導では、整容指導、遅刻指導を行った。今後ますます、生徒個々の規範意識の向上が求められる。整容指導を含めた日常生活指導の充実が急務である。今年度はコロナ禍の生活に欠かせないマスク着用、手指消毒の徹底に力を注いだ。生徒が登校する前に校舎内の換気を毎朝行った。
進路指導	進路目標設定 進路情報提供	①指導・支援の強化 ②設定目標への指導内容の充実 ③進路ガイダンス機能の充実 ④就職希望者全員合格 ⑤国公立大学への合格増加	・学年と連携し、生徒の進路意識を高めるために、進路講演会や進路情報の提供を行う。 ・指導力・組織力向上を図るために、他校視察や外部講演会参加を促す。 ・LHRや総合的な学習の時間を活用し、進路学習を推進する。 ・大学の体験講座や見学、インターンシップを進路選択の契機とする。	B	コロナ禍により、従来の対面での進路保護者会は実施できず、オンラインでの情報発信となった。教職員対象のリモート会議や動画での情報配信を視聴することで、的確に情報を共有することができた。今後は教職員の指導力向上のために、他校視察等、研修の機会を増やしていきたい。各学年の進路講演会についても、次年度はオンラインでの実施を年度当初から準備したい。
特別活動	学校生活、学校行事の充実	①生徒一人ひとりが学校行事や生徒会行事、学級行事に積極的姿勢で参加する。 ②生徒会活動の活性化と学校行事の見直しを図る。	・生徒会・各委員会の活動内容を、生徒が主体性をもって活動しやすいように見直しをする。 ・文化祭やクラスマッチ等の行事の充実を図る。 ・H R活動の時間を通して、生徒の主体性を育てる。	B	生徒会執行部と各委員会の担当教職員は合計27名。学年毎に担当者を設置し指導に当たっている。体育大会は中止となったが、文化祭・クラスマッチは感染対策を講じて実施した。委員会活動のさらなる活性化を図るため、定期的な活動の時間・場所を指定し、生徒たちの主体性を育みたい。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
総務部		円滑な学校行事の実施	①諸学校行事の円滑な企画・運営を図る。	・前年度の評価、反省を生かした企画 ・ねらいや留意点の徹底 ・行事後の評価、反省	B	行事はすべて感染防止対策を講じた上で実施。入学式・卒業式は当該学年のみで縮小して実施。始業式・終業式は校内放送で実施した。次年度も地域の感染状況を鑑み、感染拡大防止に努める。
		人権教育の推進	②人権教育の充実を図る。	・校内研修の充実。 ・校外研修への積極的参加。 ・LHRにおける指導の充実。	B	感染防止のため、職員研修や人権同和教育講演会を中止した。来年度はオンライン研修・講演会等の企画も視野に入れて臨みたい。人権メッセージ募集等を通して人権意識の高揚を図った。
		P T A等学校関係機関との連携	③P T A活動の充実を図る。	・学校との連携・調整。 ・教育活動への支援・協力体制の充実。 ・外部関係団体との連携。	A	定期総会は書面総会となったが、クラス理事会や運営委員会は感染防止対策を講じて実施できた。諸行事が中止となる中、保護者による門松作りが実施されるなど、継続的な協力を得た。
		防災意識の高揚	④緊急事態に対し身の安全を図る。	・学校環境、立地条件を踏まえた対策。	B	全校生徒が一斉に移動する避難訓練は実施できなかったが、避難時の注意・避難経路の確認を各クラスで実施。例年、地震を想定して実施しているが、今後は様々な状況を想定して実施したい。
		記録・資料の保管	⑤学校関係記録・保管の整備を図る。	・記念事業等を踏まえた資料の収集・保管。	B	各部との連携・協力により資料の保管管理を行っている。
各部及び理工科	生徒指導部	学校生活の充実および社会性の涵養	①生徒の基本的な生活習慣の確立を図る。	・互いに人格を認め合う生徒集団をめざす。 ・欠席、遅刻早退がなく、健康な体力と精神を育てる。 ・あいさつが飛び交う明るい学校をめざす。	B	社会性を身につけた生徒の育成を目指し、生徒の人間関係を配慮しながら、指導に取り組んだ。認め合い、協調し合い、共に成長する人間関係の必要性を「文徳点描」を通して保護者へも発信し家庭での協力を呼びかけた。あいさつ運動を積極的にに行った。
			②生命を尊重し、安全で健康な心身の確立を図る。	・互いに人格を認め合う生徒集団をめざす。 ・欠席、遅刻早退がなく、健康な体力と精神を育てる。 ・挨拶が飛び交う明るい学校をめざす。	A	カウンセリング部と連携し、生徒の悩みやトラブルの早い発見を心掛けた。保健部と連携し、健康観察簿を通して各クラスの状況を把握し、日々の指導計画に結びつけた。各学年会と連携し、ルールの遵守、マナー向上の指導に努めた。毎月17日を「学校交通安全日」と定め、交通事故防止の啓発活動を継続実施している。今年度3月で660回目の実施となる。
			③自主性を養い、勤労意欲に満ちた生徒の育成を図る。	・人生目標を計画設計させる。 ・社会に貢献できる喜びを体感させる。 ・学校行事や校内活動に積極的に参加させる ・ボランティア精神の育成を図る。	B	多くの生徒が進路に対し目的意識をもって学校生活を送っている。今年度はコロナ禍にあり、講演会等の実施が出来なかったため、総合的な探究の時間・LHRの時間を活用し、自己を見つける機会を設定した。学習や学校生活に消極的な生徒に対しては多角的なアプローチを各学年会と協力し模索する必要がある。
			④特別教育活動の推進を図る。	・積極的な部活動への参加を推進する。 ・地域と連携したボランティア活動を計画する。 ・生徒会活動、委員会活動を通じて愛校心、地域愛、所属意識を育てる。	B	部活動の人間教育は、目的意識や集団活動を行う上で成果を上げている。文化系部活動を充実させるために、目的を明確にし、発表の場を提供する必要がある。生徒会役員は、自発的に校内の美化活動を行っている。今後は地域清掃などを通して、地域との連携の場面を設定したい。令和2年7月豪雨では生徒31名がボランティアに参加した。
			⑤学校の環境美化を推進し、奉仕精神の育成を図る。	・全職員による清掃指導の強化を図る。 ・教室・部室などの環境整備や美化意識の向上を図る。	B	掃除監督に全職員を配置し、毎日清掃指導を実施した。教育の場として、生活空間の清掃美化を生徒自身が考え行動するように発展させたい。清掃時には日誌をつけることで、生徒個々の環境美化への意識向上を図った。
保健部	健康教育の推進	①自己を知り、体と心を鍛え健康で衛生的な生活の推進を図る。	・校医検診を始めとする各計測検査結果の適切な指導処置を図る。 ・生涯に通じる健康観の確立と自己管理能力の定着を図る。	B	定期健康診断結果・受診勧告書を配付し、受診者の18.4%から報告を得た。新型コロナウイルス感染症の影響により歯科及び眼科検診は未実施。保健指導については「保健だより」だけでなく、体育や家庭等の教科とも連携して生徒の理解を深めるとともに、個人指導を通して個々に応じた健康生活を送れるよう推進していきたい。	
		②生命尊重を基盤とした、健康で安全な行動・実践力の養成を図る。	・学校内外での活動（体育行事・学校行事）での適切な準備指導を行う。 ・安全・衛生的な環境整備の維持や安全点検の実施を行う。 ・心身の健康に問題を有する生徒への対応の充実を図る。	B	新型コロナウイルス感染症対策として、毎朝の健康観察に体温確認を追加し、マスク着用や換気、手洗い消毒等の励行を指導した。今後もより一層の定着を図りたい。校内と寮に消毒薬と非接触式温度計を設置した。また、体育行事では生徒の体力低下や感染防止を考慮して競技を決定し、校外施設を利用した際は使用場所の消毒にも努めた。生徒等の心身の健康保持のため、SCやSSWと協力して継続的に対応している。	
図書部	図書利用の促進	①読書意欲を高める図書館教育を推進する。	・生徒の提出するリクエストカードの有効利用。 ・読書週間等の企画や図書室だより等での読書推進活動を強化する。	B	『図書だより』を定期的に発信し、読書への関心を高めている。図書委員から、おすすめの本を紹介してホームページに記載した。また、今年度は、学校図書館業務の『探調TOOLDX』をバージョンアップし、蔵書の管理業務を行った。	
		②蔵書の充実を図る。				
		③情報センターとしての機能充実を図る。	・教科関係資料や各種文献、蔵書、書庫等の整理とデータ化を進める。	B	総合的な探究の時間で、図書館を利用するクラスが増えた。グループ毎に課せられた課題を調べ、毎週与えられた課題に関する資料を貸し出した。本年度も、大学受験をサポートする為、国公立・難関大学の参考資料の充実を図った。	
		④受験直前の生徒に対して自学自習の場所を提供する。	・今年度も、大学受験をサポートする為、難関大学の参考資料等を購入した。	B		

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
教務部	学力向上への意欲を育てる	①学校行事が行われる中、授業時数の確保を図る。	・各行事に向けた特別時間割を作成し、自習の減少を図る。	A	休校期間の学習補充のため、夏休み・冬休みを短縮、土曜にも授業を追加して特別時間割を編成し、授業時間数を確保した。自習時間を減らすことにより、授業の大切さを生徒に発信できた。	
	分かる授業への取組	②生徒の学習意欲を喚起するよう、一層の授業改善と評価の充実を図る。	・授業の内容を精査し、生徒が興味を持つ題材を選択する。 ・考査と授業が連動していることを生徒に理解させ、日々の授業への取り組み方の向上を図る。 ・教科主任会などを実施し、学力向上に向けた取り組みを共有する。	A	授業時間が減った科目については、ICT機器などを活用した。その結果、これまでよりも少ない時間で同程度の授業進度の確保ができた。新型コロナウイルス感染症対策のための一斉臨時休業が5月31日まで続き、新たな年間行事計画の下、授業の大切さを教職員・生徒ともに実感を持ちながら、6月より授業をスタート。生徒自身の意識向上がみられ、欠点科目保持者が減った。今後の全ての教科でのICT活用に向けて、各教科での検討会を実施し、職員一人一人の意識改革を促した。	
	基礎学力の定着	③基礎基本の着実な定着を図ると共に、主体的に学習に取り組む意欲・態度を育成する。	・3年間を見通した授業計画を立てて、授業内容の精査を行う。 ・細かい小テストを反復することで基礎基本の定着を図る。	B	休校期間の授業時間数の補充や授業進度の確保のため、小テストの反復は充分実施できなかった。ICT機器の活用で授業中の作業が軽減され、今後は個々の生徒へのより丁寧な対応が見込まれる。研修を積み重ね、授業の質の向上および基礎基本の定着に向けての取り組みを前進させたい。	
	教務規定の周知徹底	④教務関係書類等を見直し、効率的な事務処理を推進する。	・諸処理が正確、迅速、適切なものとなる工夫・改善を図る。 ・教務規定を含めた実務の手引の編纂により、全職員に周知・徹底を図る。	C	現在、教務規定を学校経営案に掲載して全職員への周知を図っているが、実務の手引きの編纂まではいかなかった。令和3年度中の完成を目指したい。各種書類の統一化、ペーパーレス化について検討を進めたい。	
各部及び理工科	多様なニーズを持つ一人ひとりの生徒に応じた進路指導の推進	①多様化する生徒個々の進路目標への対応を推進する。	・進路情報の的確な提供と進路意識の高揚・啓発を図る。 ・進路講演会や出前授業を実施する。 ・進路担当者や担任との個人面談強化を図る。 ・外部教育力の活用（職員研修）を図る。 ・オープンキャンパス等への積極的参加を奨励する。	B	3学年の保護者会は中止し、感染防止対策を講じて三者面談を実施。「Google Classroom」を用いた進路情報の発信も行った。外部から講師を招き、成績報告会を実施し、情報の共有を行った。オンライン講演会や説明会に参加し、職員間の情報の共有を図った。今後はネット環境を充実させ、情報発信をこまめに実施したい。コロナ禍で大学のオープンキャンパスに参加できない生徒が多かった。各学校の出前授業等を活用して、進路を考える機会を増やしたい。	
	進路希望実現に向けた啓発活動、指導の体制の確立	②進路希望実現のための学力充実を図る。	・生徒全員が毎日行動の記録をとり、週明けに提出し、担任からのチェックを受ける。 ・教務部と協力し、朝の時間を活用して、基礎学力テストを計画的に実施する。 ・成績検討会を行うことで、情報の共有化を図る。	C	学力の定着を図るために、朝トク（基礎学力テスト）を全学年に対して計画的に実施した。今後も学習の成果を確認し、改善していきたい。夏休みの短縮により、3年生に対して希望進路別の学習指導の時間が充分に取れなかった。小論文の指導は全職員で協力して実行した。模擬試験後の定期的な成績検討会がほとんど実施できなかった。今後は着実に実施し、授業の改善につなげたい。教職員の指導力向上のために、定期的な研究授業の実施や校外研修の機会を増やす。今後も生徒の進路実現に向け、基礎学力の定着を図るとともに、教職員の指導力の向上を図っていきたい。	
	進路実現に繋がるキャリア教育の実践	③職場体験の機会を設けるなど、職業観の育成を図る。社会保障制度への理解を深める。	・職場見学会やインターンシップを実施する。 ・職業講話（年金、マネー入門講座等）の活用。 ・LHRの効果的活用。総合的な学習の時間との連携強化を図る。 ・教科活動を通して職業観の育成に努める。	A	地道なキャリア教育の指導・実践が、本人の希望に添った職業選択に繋がった。今年も就職内定率は100%を達成し、進路保障の責任を果たすことができた。コロナ禍により、職業見学会やインターンシップを実施できなかった。代替案の準備が必要である。年金事務所などの協力で毎年実施していた就職者セミナーを、今年は進路担当職員で実施した。1年生は総合的な探究の時間の中で、職業観の育成ができた。キャリアアップに向け、早期に3年間を見通した計画を立てる必要性を再確認した。	
広報部	本校教育活動の素晴らしさの正確な情報の発信	①入試情報や学校行事の情報をより早く、分かり易くする。	・学校案内は、本校の良い所を正確に伝える。 ・ポスターは伝達事項を分かり易く明確に表現する。 ・文徳点描を毎月発行する。	A	学校案内は、より分かり易く編集できた。特設掲示板用のポスターは、ホームページに役割を移行させることで、本年度で最後とした。文徳点描の形式を、より親しみやすいものになるよう刷新した。卒業式のライブ配信を実施した。	
		②ホームページ等による情報発信。オープンキャンパスに替わる学校見学会の開催。	・ホームページにより教育活動の速やかな情報発信を継続的に行う。 ・学校見学会を通じて、学校の魅力を体感してもらう。	A	「文徳ing」はほぼ毎日更新し、速やかな情報提供ができた。コロナ禍にあり、新規の動画配信を頻繁に行い、例年以上の視聴数を得た。オープンキャンパス中止を受け、新たに企画した学校見学ツアーで、900名に及ぶ中学生と保護者の参加を得、個々に対応した丁寧な説明が実施できた。	
		③各種説明会を充実させ、理解を深めてもらえる工夫をする。	・各説明会の担当者と意見交換を行い、本校の実情に合わせた説明を行う。	A	担当者の創意工夫で、学校説明会において、本校の良さを具体的に伝えることができた。説明内容の均一化もある程度達成できたが、来年度はパワーポイントを活用した説明に統一したい。	
事務部	教育環境の整備	①文徳寮と文六寮の統合の実施。校舎外壁タイルの危険箇所の修復工事を行う。	・文徳寮を文六寮と統合するにあたり、文六寮の改築工事を行う。校舎外壁タイルの補修工事を実施。	A	耐震診断の結果、文徳寮が基準を満たさず、文六寮改築工事を実施して文徳寮との統合を進めた。熊本地震で被災した校舎の外壁タイル工事を9月～12月に実施し、無事完了することができた。	
		②自然災害時および新型コロナウイルス感染防止に係る対応。	・災害時の緊急対応に備える。また、感染症対策に必要な備品を準備し、感染防止を図る。	A	7月の豪雨災害でJRの一部区間が不通となり、通学困難者の交通手段の代替措置として大型バスの運行を実施した。感染症対策として必要な備品（マスク・アルコール消毒液等）の購入を行った。	

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
各部及び理工科	カウ ン セ リ ン グ 部	・学校生活に充実感を覚える健全な人間関係を構築させるための、生徒へのアプローチ	①教育相談などを通じて、生徒が学校生活を送るうえで生じる様々な問題を軽減解消し、充実した学校生活を送れるよう支援する。 ②アンケート調査や担任の面談・養護教諭の語りかけによって悩みを持つ生徒を早期に把握する。	・教育相談では、面談を通して生徒へ適切な助言等を行う。生徒・保護者・担任の三者面談も同時に実施。必要に応じて、生徒指導部などの関係部と連携し問題の解決にあたる。 ・アンケート調査結果を分析し早期の問題発見に努める。職員研修を実施する。	B	悩みを抱える生徒に対しては、家庭訪問や保護者を交えた相談を通じて解決に努めた。また、スクールソーシャルワーカー（SSW）やカウンセラー（SC）との連携を図り、問題解決に努めた。その結果、登校できるようになった生徒もいた。「心のアンケート」調査結果を分析することで、問題の早期発見につながった。SSWやSCとの連携で、問題の解決につながった事例もある。職員間で共通認識を持ち、個人で対応するのではなく、学年集団・関係職員というチームで対応するように努めた。個々の生徒によりケースが異なるのでより柔軟な対応が求められる。
			①「不登校生徒」への対応	・保健部と連携し、毎日出席状況を確認。欠席の続く生徒は、概要と要因等を探り、担任と連携を密にする。担任は、家庭訪問を行い、生徒の状況把握、保護者の思いを受け止める。さらに、専門家（SC・SSW）等の助言を得ながら、支援の方法などの充実を図る。 ・教室に入室できない生徒については、カウンセリング室・保健室・図書室などを使用。	B	毎日、出席状況観察カードで欠席生徒を確認し、気になる生徒は担任に確認する等、その理由の把握に努めた。今年度は、新型コロナウイルス感染予防の観点から、生徒の健康状態は、より以上に注意した。毎日の体温調査はもとより、コロナ禍での心の健康状態の把握に学校全体で取り組み、不登校の初期段階の発見に繋がった。不登校の生徒に対して「カウンセリング委員会」で専門的な支援方法について検討し、SSWやSCに依頼して相談を重ね、改善した生徒もいた。より早急の対策が必要であり、保健室やカウンセリング室を利用することで、登校できるようになった生徒もいた。
			②「いじめ」への対応	・「こころのアンケート」などの諸調査で「いじめ」の早期発見に努め、重大化する前に対処する。「いじめ」が確認できた場合は、「学校いじめ対策委員会」で対応を協議。学年・生徒指導部・保健部と連携して対応。	B	・SNSにおける誹謗中傷等の社会問題と相俟って、新型コロナウイルス感染者への差別や偏見による言動が「いじめ」につながる恐れがあることを踏まえ、個々の生徒が人ごとではなく自分ごととして考えるように担任をおして発信した。文部科学大臣メッセージ「児童生徒等や学生の皆さんへ」を全校生徒に配布した。外部講師による啓発講演会等は次年度実施予定である。
	事例検討会の実施	③「発達障害等を有する生徒」への対応	・定期的に保健部よりパンフレットを発行し意識を高めた。 ・発達障害等を有する生徒への専門的支援「TEACCHプログラム」の概要を担当へ提供。	B	カウンセリング委員会が専門的な支援方法について検討した。個別の学習プログラムを作成し、「できること」から始め、そこから「できること」を広げてゆく取り組みを行った。支援が必要な生徒への合理的配慮を検討し、関係職員の共通理解を促した。様々な研修などを通じて、個別の支援方法を組立ることが求められる。	
		①カウンセリング委員会等（毎月1回実施）	・構成委員（教頭・学年主任 カウンセリング部長・養護教諭・人権担当教諭・SSW・児童相談所・病院関係者・外部カウンセラー）	B	カウンセリング委員会において学校・家庭・外部関係者が連携を図ることで、進路保障に繋がった生徒もいた。今後も外部の専門的機関との連携を高めていき、課題解決に努める。新型コロナウイルス感染症拡大という状況もあり、定期的に委員会を実施できなかった。	
	理工科	工業教育を通して地域社会に貢献できる人材を育成する。	②ケース会議（必要に応じて実施）	・構成委員（教頭・学年主任 カウンセリング部長・養護教諭・SSW・児童相談所・病院関係者など）・保護者も出席。	B	今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、関係職員・外部関係者・保護者が一同に会するケース会議は実施できなかった。関係職員により対応内容を検討し、必要に応じて、個別に対応した。
			①専門教科で学んだ知識・技能を活かしてモノづくりや資格取得に対する意欲を高めると共に進路実現を保证する。	・実習や各授業において分かりやすい授業を行い、生徒の興味・関心を高め、学習内容を理解させる。 ・学年また専攻毎に資格取得に取り組むことで達成感を体得させ、更に上級資格への意欲を高める。 ・国家資格取得については放課後などの時間を有効に活用し合格率を上げる。 ・県下の中学生を対象に「モノづくり教室」を実施する。	A	新型コロナウイルスの感染拡大防止対策の中で各種資格取得対策に不安はあったが、例年並みの結果をあげられた。主な資格取得状況は国家資格取得で電気工事士2種（17名/31名中）、同1種（2名/4名中）。工事担任者DD3種（8名/13名中）が合格。ともに合格率は全国平均を上回っている。各種検定試験で計算技術検定1級5名、情報技術検定1級5名、リスニング検定1級5名。ジュニアマイスターゴールド3名、同シルバー5名、同ブロンズ2名であった。 県下の中学生を対象とした「モノづくり教室」はコロナの影響で実施できなかったが、少人数グループによる「学校見学会ツアー」で多くの中学生に、モノづくりの魅力を伝えることができた。
			②卒業後の進路選択と自らの人生設計に必要な力を育成するための「キャリア教育」「職業教育」を推進する。	・学年ごとに進路別ガイダンスを実施し、一人一人の人生設計の一助とする。 ・企業講話などを実施し、職業観を育成する。 ・2年次にインターンシップを実施、職場体験させることで生徒の職業観を高める。	A	進学においては、特別進学コースが国公立大学3名、高専編入3名。他公立の短大2名。専門コースは崇城大学に17名。その内、特待生制度（ミライ50）に4名が合格した。また、その他私立大学に9名合格。就職においては、学校紹介就職希望者の内定率100%を達成した。公務員においては国家Ⅲ種など3名が合格を果たした。インターンシップはコロナの影響で中止。コロナ禍での「職業教育」に工夫が必要である。

4 学校関係評価

(1) 生徒による評価（アンケートから）は、次のようなものであった。

- | | | |
|------------------------------------|--------|--------|
| ① 学校が楽しいですか。 | | |
| ・楽しい・まあまあ楽しい | 肯定的な回答 | ◇92.5% |
| ・あまり楽しくない・楽しくない | 否定的な回答 | ◇7.5% |
| ② スポーツや音楽、趣味など、自信のあることや自慢できるものがある。 | | |
| ・ある | 肯定的な回答 | ◇77.1% |
| ・あまりない・ない | 否定的な回答 | ◇22.9% |
| ③ 授業が分かりますか。 | | |
| ・分かる・まあまあ分かる、 | 肯定的な回答 | ◇79% |
| ・あまり分からない・分からない | 否定的な回答 | ◇21% |

①の「学校が楽しいですか」という質問への回答から、ほとんどの生徒が本校での高校生活を楽しんでいる状況が窺える。「あまり楽しくない」7.5%という数値は昨年度より0.5%減少している。その内「楽しくない」と明確に回答した生徒は2%おり、この生徒たちについて、その原因を探り、学校生活を有意義なものにすることが課題である。
 ②の「スポーツや音楽、趣味など、自信のあることや自慢できるものがある」という質問に対する否定的な回答は22.9%であった。この回答から、孤立傾向にあって目標も定まっていない生徒の存在が窺える。自信につながることに挑戦する気持ちを育てる必要がある。
 ③の「授業が分かりますか」という質問に対する「分かる・まあまあ分かる」は、79%で大半の生徒は授業を理解していると思われる。否定的な回答は21%であった。昨年度の18%より2%増加しており、より分かり易い授業への取り組みが求められる。来年度は肯定的な回答の数値を100%に近づけるように努力を継続したい。

(2) 学校関係者評価委員による評価

- | |
|---|
| ① 新型コロナウイルス感染症が猛威を奮う中、多方面にわたり感染拡大防止対策に尽力されている学校と感じる。 |
| ② 入学志願者が例年多く、文武両道の規律正しい校風で、県内全域から評価されている学校であると感じている。 |
| ③ ICT環境が立ち遅れているようなので、今後はICTの整備をすすめてもらいたい。 |
| ④ 毎月発行されている学校新聞「文徳点描」は、生徒の学校生活や保護者の生の声が掲載されており、学校からの重要な情報発信手段だと感じる。 |

5. 総合評価 本年度の重点目標である下記の4項目について評価を行う。

(1) 生徒指導

コロナ禍にあり、学校内での人間関係の構築に必要な年度当初の学校行事や生徒集会等がことごとく実施できなかった。今年度は特に1学年会との情報交換を密にし、生徒指導を実施した。本校に入学してくる多くの生徒は基本的な生活習慣が身につけている。本校の伝統である生活信条の実践を呼びかけ、心豊かで社会に貢献できる人材の育成に尽力した。集団活動が苦手な生徒は年々増加傾向にある。自ら積極的に挨拶の声を上げる指導を今後も継続したい。学校においても、今後は学習指導のICT化が進んで行く。情報ネットワーク(SNS)を生徒が日常的に利用していることを踏まえ、健全な人間関係を構築するためのルール作りが急務である。

(2) 学習指導、進路指導、広報活動の更なる充実

コロナ禍による休校期間があったものの、一部の教科においてはICT機器を活用した授業を実施し、授業内容の質の向上に務めた。授業時数が減る中で、確認テストなどの実施が少なくなった教科もあったが、各教科で工夫をし、授業内容に遅れが出なかったことは評価できる。「学習と生活の記録」を1・2年の全生徒、3年生は一部のクラスに持たせ、毎日の活動及び学習時間を記録させたことで、コロナ禍の中でも規則正しい生活を意識させることが出来た。担任によるチェックを毎週(クラスによっては毎日)行い、生徒に注意・喚起を行っている。基礎学力を向上させるため、到達度テストによって自分の現状を把握し、朝トク(SHR前の時間を使っての朝テスト)を毎日実施できた。学年によっては、資格検定の試験の時期には、朝トクの時間に資格試験に向けた取り組みを行った。朝トクの効果を検証し、次につなげていきたい。進路指導について、企画委員会を通して各学年会との連携を深めることができた。広報部の企画立案で、広報委員会職員により、広範囲におよぶ広報活動を実施し、多くの受験生を迎えて入学試験を実施することができた。HPや文徳点描を通じて在校生や保護者に向けた広報も充実させることができた。

(3) 教育環境の整備

令和2年度に中学校校舎のICT環境を整え、中学生全員にタブレットを準備した。令和3年度には高校校舎のICT化を計画している。高校生にも全生徒にタブレットを配付する予定である。今後は職員研修を重ね、具体的な授業の改善に取り組む。

(4) 生徒の諸活動(学校行事、部活動、生徒会活動)の充実

コロナ禍にあり、中止した学校行事も多く、実施できた行事も縮小を余儀なくされた。今後は感染防止対策を講じながらも、生徒の充実感につながるように、学校行事に工夫を加え企画して行きたい。放課後には自習室を開放しているが、感染拡大防止対策を講じ、参加人数を限定して実施。例年より利用者は少ない状況であった。部活動では、各種大会が中止となり、練習でも時間的・空間的制約を受けるなど、例年通りの活動はできなかったが、体育部19・文化部4・同好会9それぞれが工夫を凝らしながら活動を継続した。体育部19の内13部活動で女子の入部が可能であり、女子生徒の活躍の場も広がりを見せている。生徒会活動では、委員会活動の活性化に取り組み、生徒主体の活動が出来たことは評価できる。しかし、時間的制約もあり、すべての委員会までは広がらなかった。

6. 次年度への課題・改善方策

- | | |
|-----|--|
| (1) | 2年後の新学習指導要領の本格実施に向けて、教育課程の編成とともに授業の内容の精査・検討を行う。来年度は移行措置の一つとして普通科JSS・JSコースにおいて情報科の授業を1学年で実施し、芸術科の授業を2年次に実施する。ICT環境の充実に伴い、デジタル教材の導入も必要となる。各教科で検討を重ねて、確実な授業改善につなげたい。 |
| (2) | コロナ禍にあり、今年度は1,2年生の進路講演会の中止を余儀なくされた。また、大学の対面でのオープンキャンパスも少なくなった。次年度は各学校の出前授業等を活用して、希望進路別に分散した形で進路学習を実施し、進路を考える機会を増やす。成績検討会をこまめに実施するために、年度当初より行事予定表に組み込む。また、教職員の指導力の向上を図るために、校外研修の機会を増やす。
基礎学力向上を図るための取り組みとして、現在の「朝トク」(SHR前の時間を使っての朝テスト)を実施しているが、次年度からAI×アダプティブラーニング「すらら」を導入する予定である。また、「生徒全員が参加した能動的に学ぶ授業」を目指して授業の改善を図るために、「すらら」の授業での活用についても今後具体的な検討に入る。 |
| (3) | 老朽化している空調設備の更新工事を継続する。高校校舎のICT環境を整える。 |
| (4) | 生徒会の委員会活動を活性化させるため、水曜日放課後を利用した定期的な委員会活動を計画する。また、その発表の場として、生徒会を中心とした生徒集会を実施する。 |